



# 新型コロナウイルス禍が仕事や 家庭生活に及ぼす影響について のアンケート結果概要

令和2年9月実施  
函館市女性センター

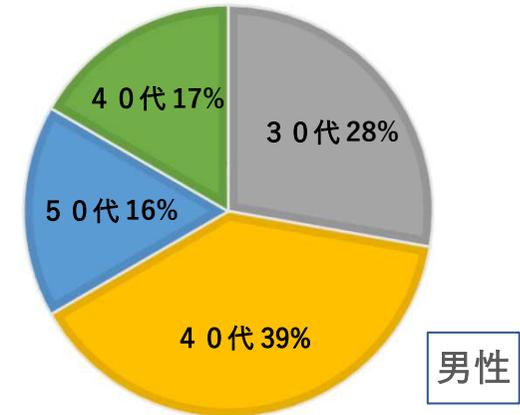
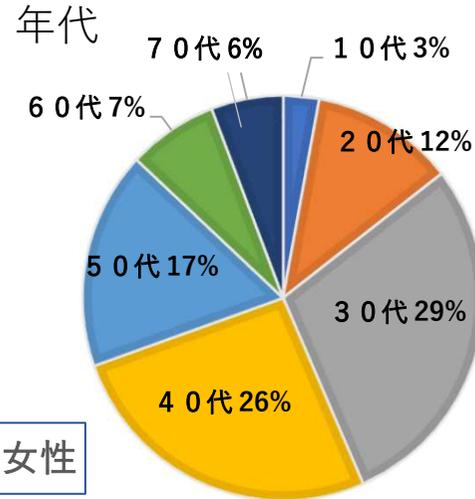
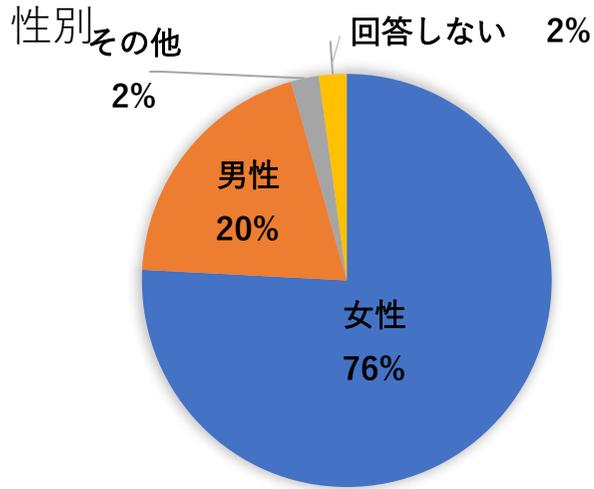
# 新型コロナウイルス禍が仕事や家庭生活に及ぼす影響についてのアンケート結果について

## 調査の概要

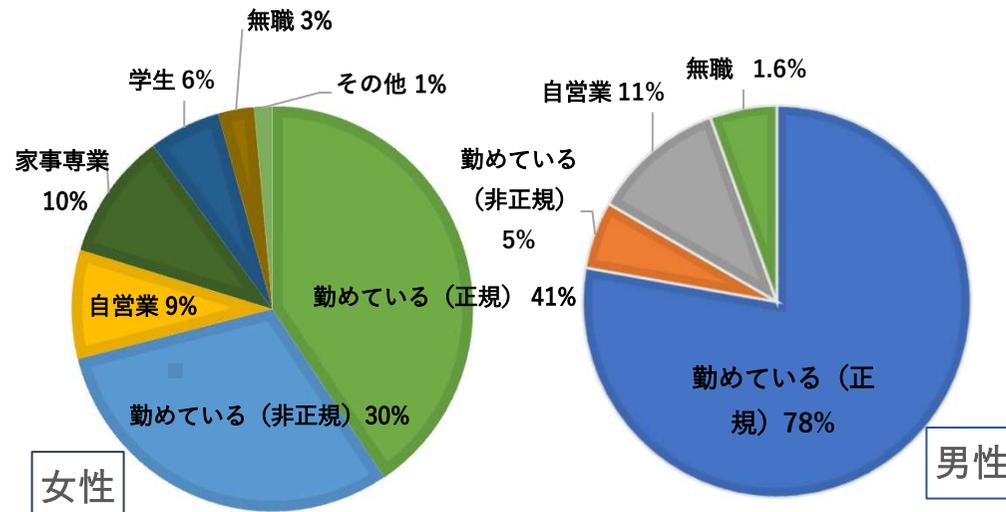
- 1 調査期間 令和2年9月1日（火）～9月30日（水）
- 2 対象 函館市内に在住、在勤、在学の方
- 3 実施主体 函館市女性センター
- 4 実施方法 Googleフォームを利用したWEBアンケート
- 5 回答者数 91名（女性69名、男性18名、その他2名、回答しない2名）
- 6 調査結果まとめ
  - ・男女共同参画フォーラム実行委員会構成団体あてに調査依頼するとともに、アンケート実施について、函館市女性センターHPや公共施設へチラシを設置して周知しました。
  - ・回答は女性が7割、男性が3割弱、年代は20代～40代が全体の6割でした。
  - ・職業については、正社員が約47%、パート・アルバイト等は25%で、男女別で見ると、男性は7割が正社員であるのに対し、女性は4割が正社員、3割がパート・アルバイト等、1割が家事専業という結果でした。
  - ・「働き方の変化」では男女ともに「特に変化がない」が半数でしたが、「収入の変化」では「収入が減った」と答えた割合が女性は男性のおよそ2倍でした。「生活・行動の変化」や「心身の変化」では、男性よりも女性のほうが気持ちが沈むなどの変化を感じていることがわかりました。

## 2 調査結果

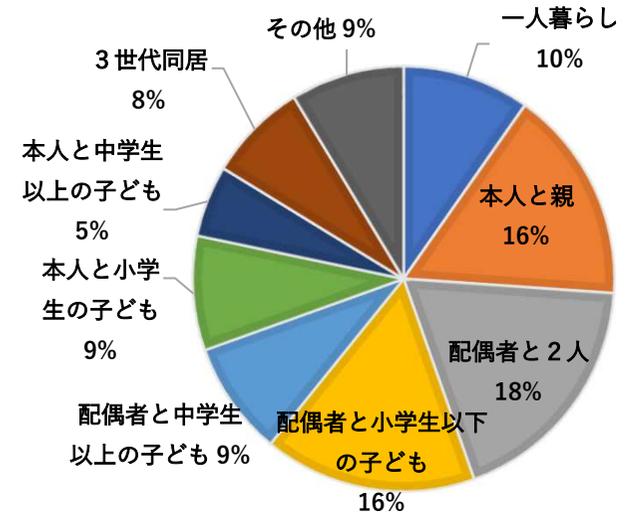
### 【回答者属性】



### 職業



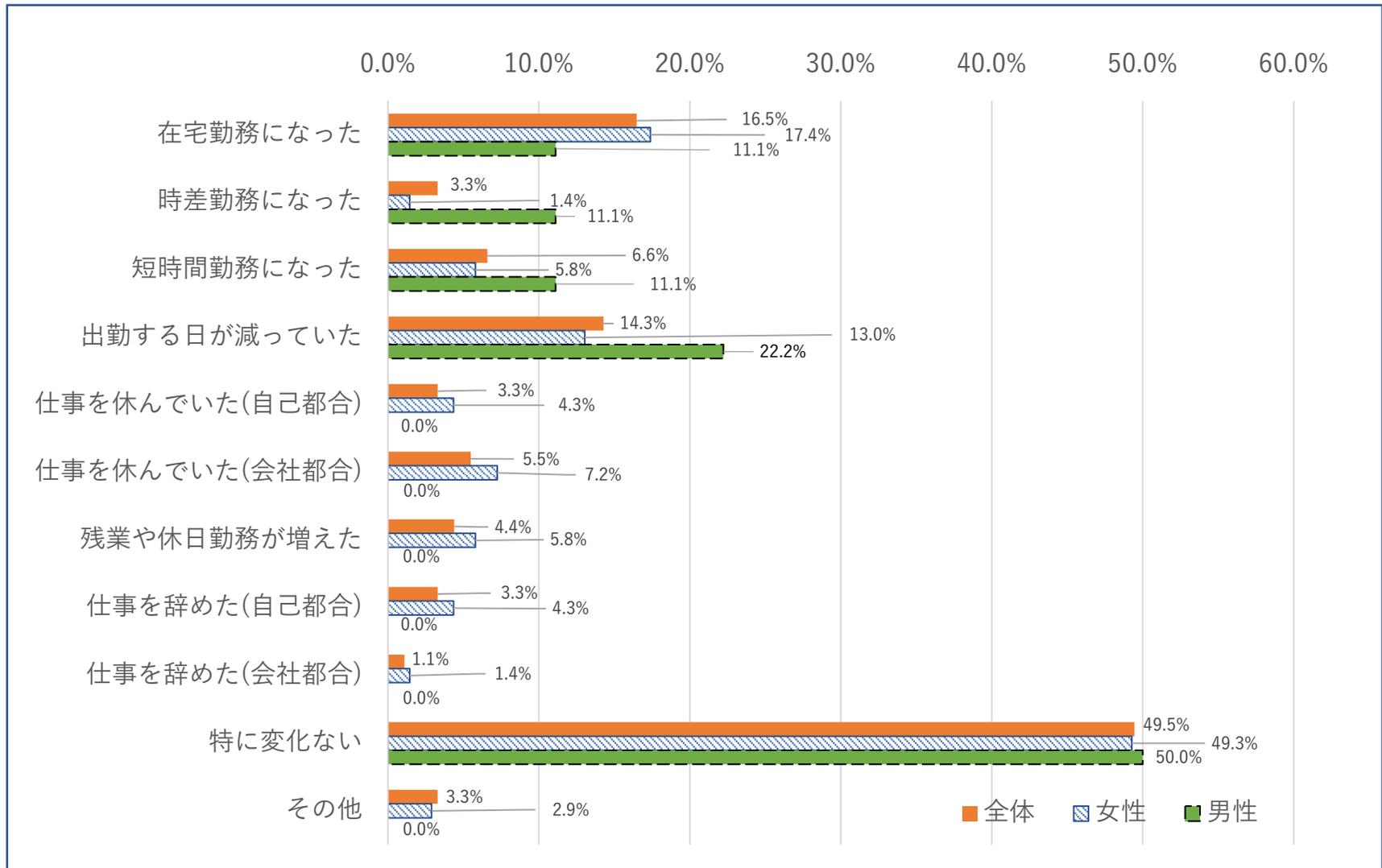
### 家族構成



# 1 働き方の変化

問 新型コロナウイルスの影響で、あなたの働き方は変わりましたか（複数回答可）

【男女別】

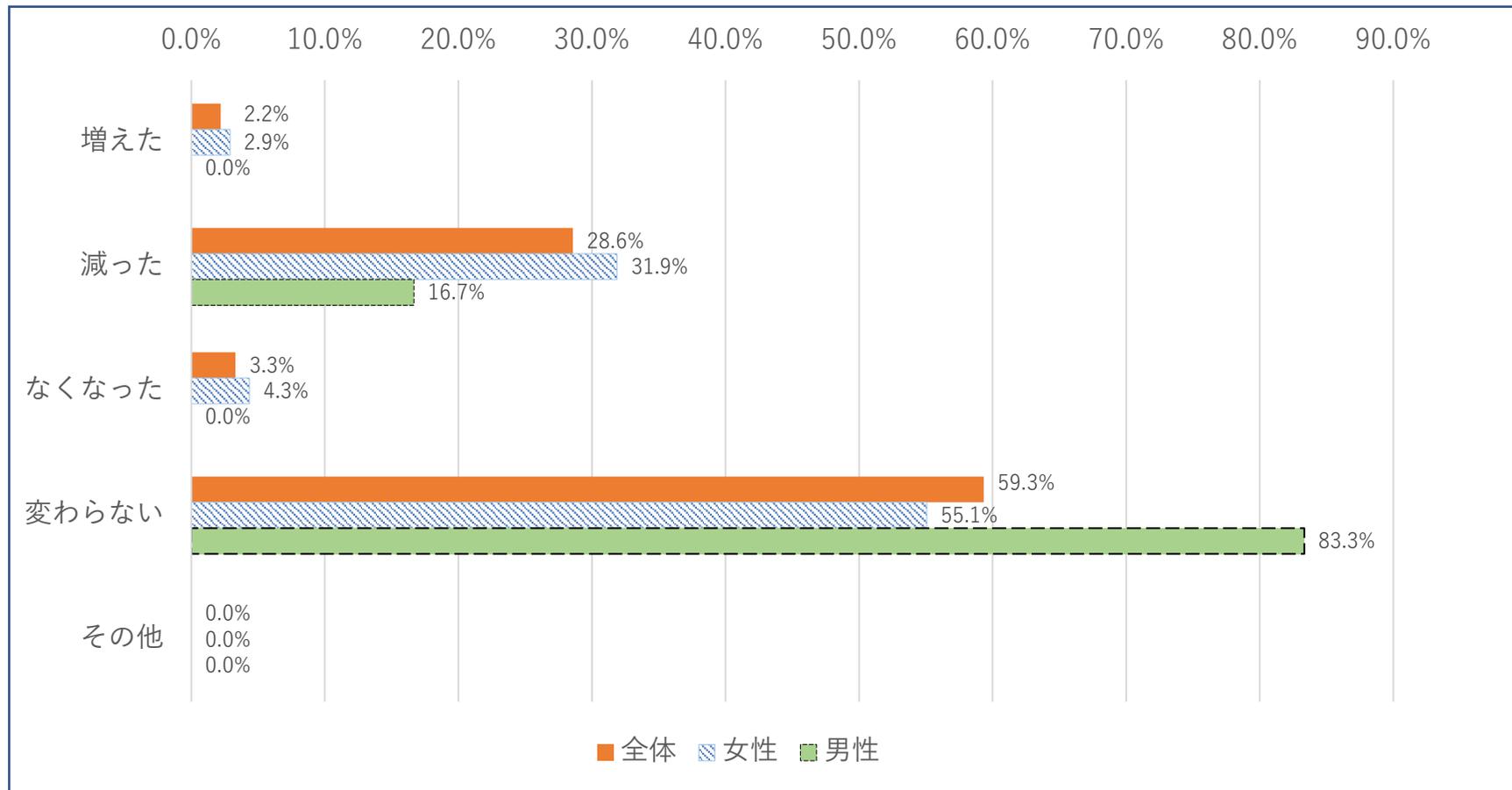


回答者の半数が新型コロナウイルスの影響で働き方の変化は特にないと回答。一方で、「仕事を休んでいた」「仕事を辞めた」の回答は自己都合の場合も会社都合の場合も女性が多く、また雇用形態別では「在宅勤務」の項目は正規雇用が47%に対し、非正規雇用は13%と差があった。

## 2 収入の変化

問 ご自身の収入への影響はいかがですか。

【男女別】

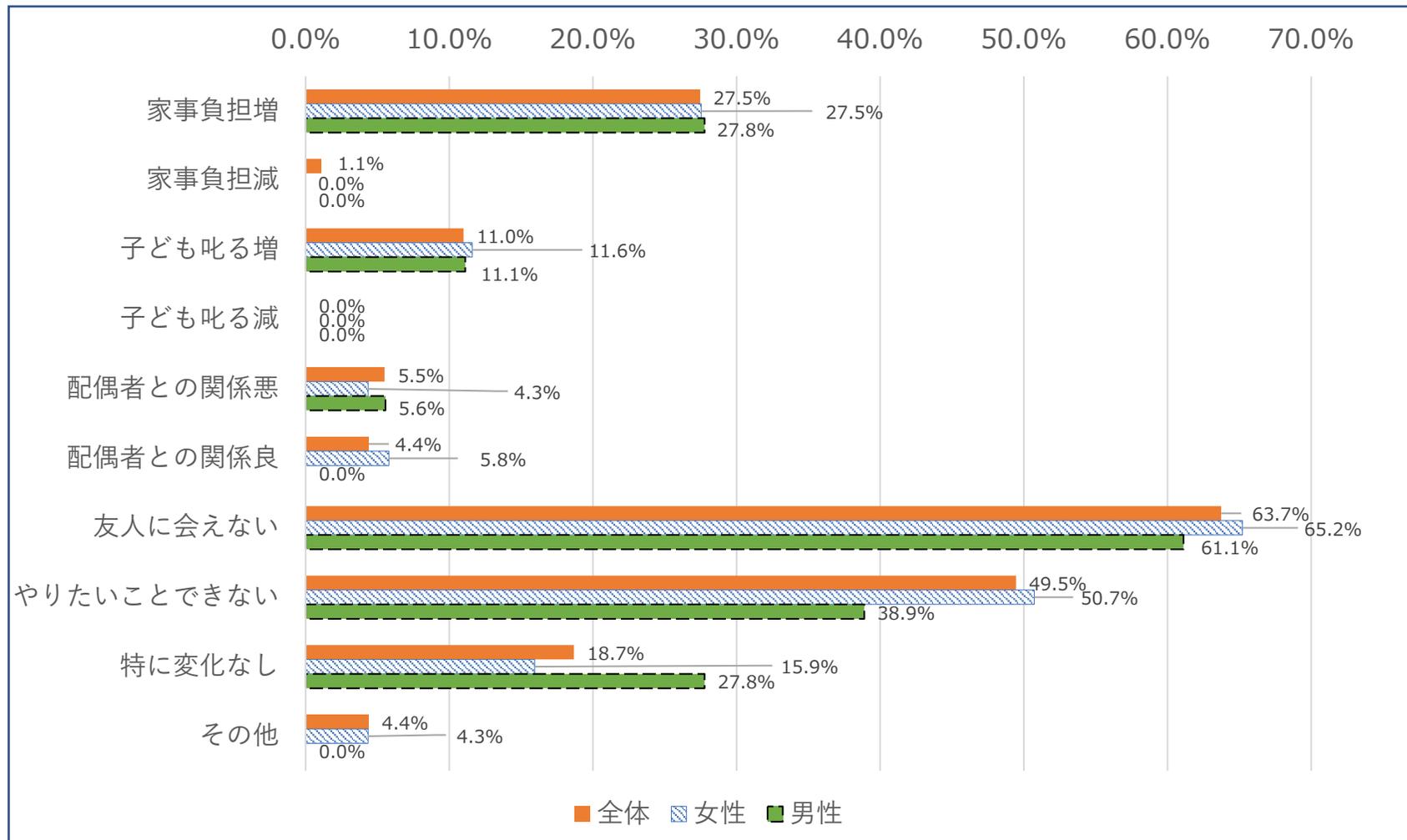


収入が「変わらない」の回答は男性が83.3%、女性は55.1%と差がある。「収入が減った」と回答したのは男性よりも女性が多い。また、雇用形態別では自営業の62.5%が「収入が減った」と回答、非正規雇用も47.8%が「収入が減った」と回答している。

### 3 生活や行動の変化

問 新型コロナウイルス感染拡大や防止のための「新しい生活様式」の実践による影響で、コロナ禍前に比べ、あなたの生活や行動に変化はありましたか。

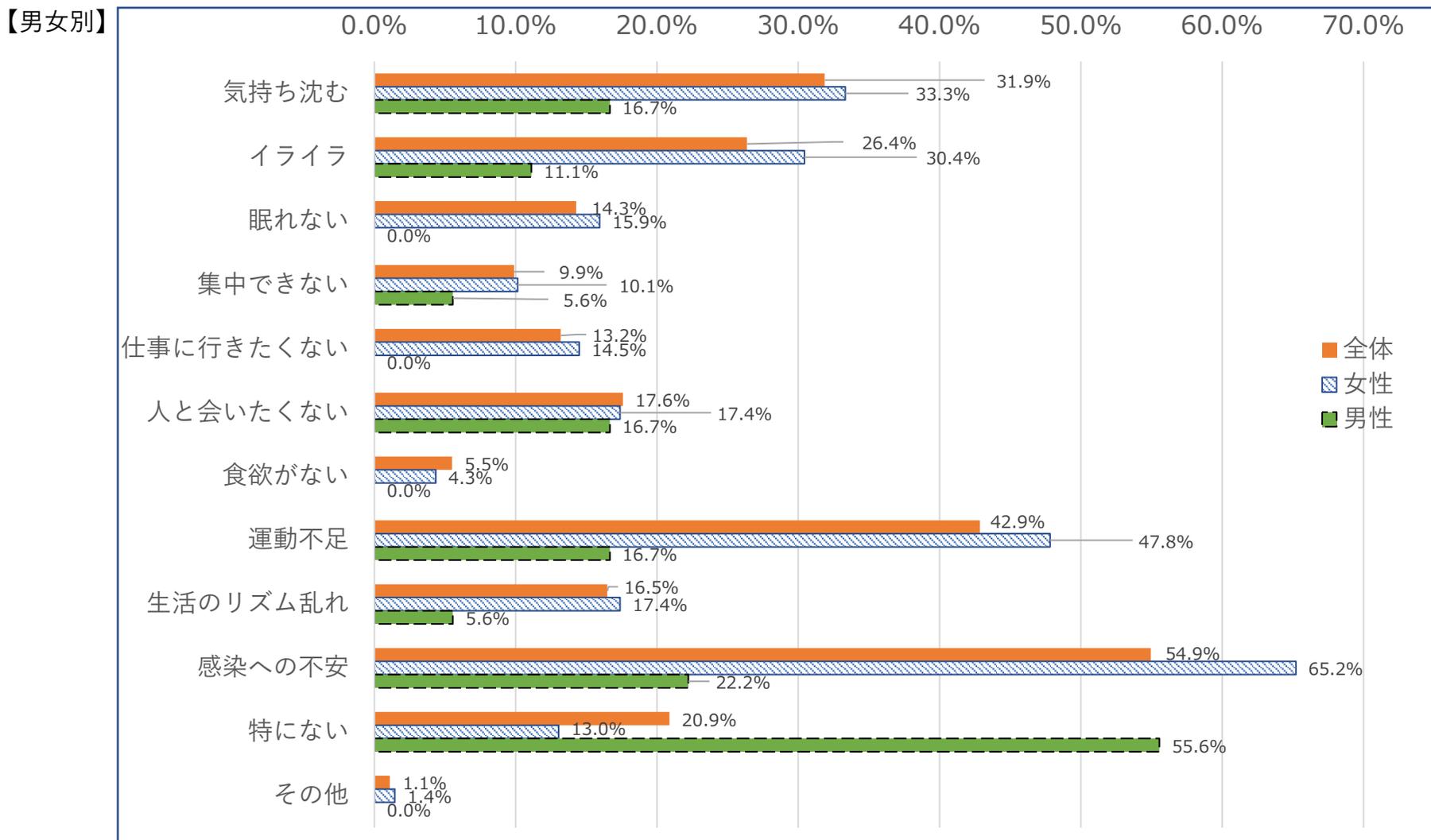
【男女別】



男女とも「友人に会えない」の回答が最も多く、次いで「やりたいことができない」「家事の負担増」「子どもを叱ることが増えている」の回答も男女同程度の割合だった。その他の回答は、「行ける場所が制限されてる」「実家に帰省できなくなった」「マスクをしてないと出掛けられない雰囲気」など。

## 4 心身の変化

問 新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、あなたの心身に変化がありましたか（複数回答可）

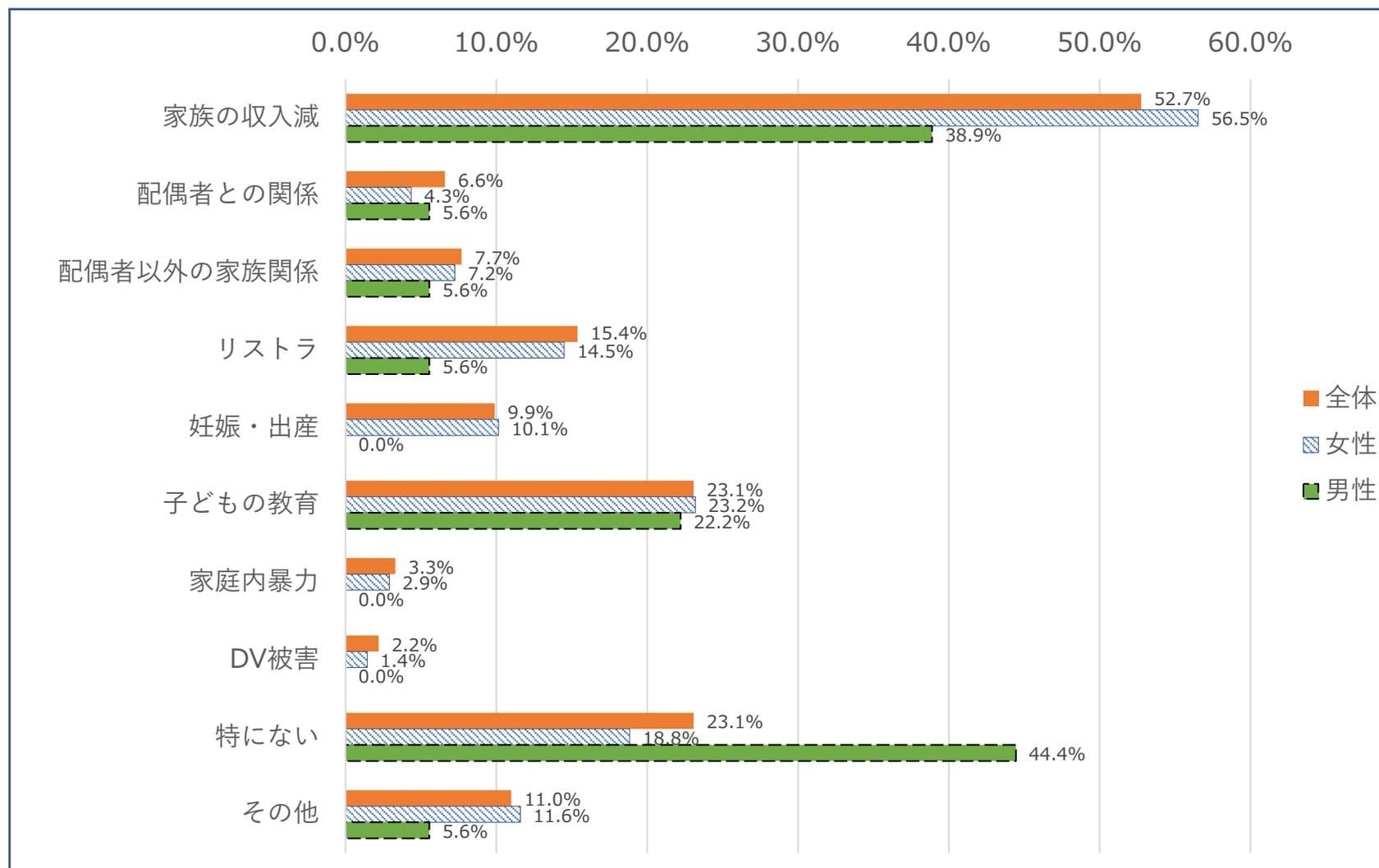


男性の半数が「特にない」と回答しているのに対し、女性は13.0%と差がある。女性は「感染への不安」が一番多く他には「運動不足」「気持ちが沈む」「イライラする」との回答が多い。

## 5 今後の不安について

問 今後、あなたやあなたの家族のことで不安に思っていることは何ですか（複数回答可）

【男女別】

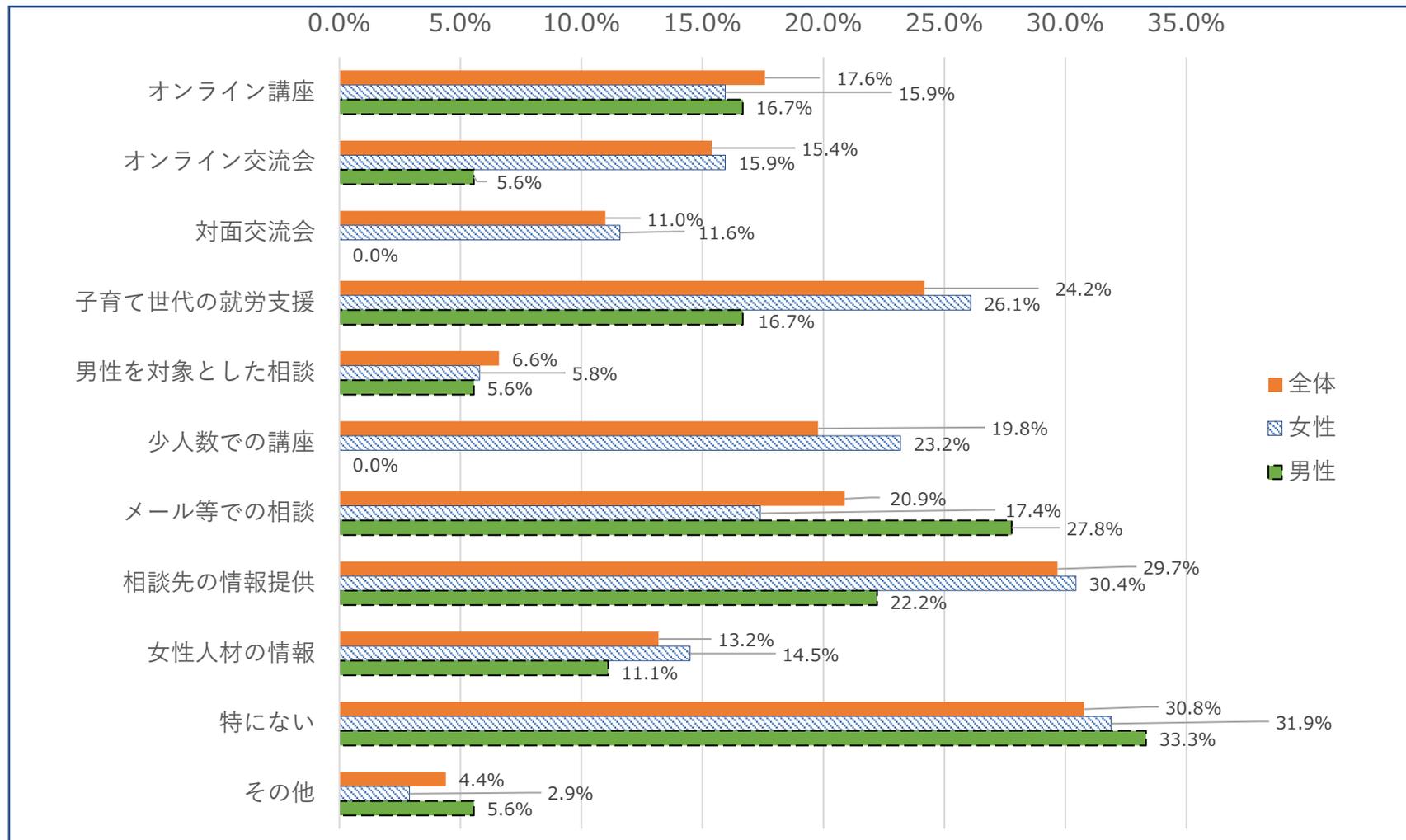


男性の44.4%が「特にない」と回答。女性の18.8%と差がある。不安に思っていることのうち、全体では「家族の収入減」に回答が最も多く、次いで「子どもの教育」の回答が多い。その他の回答としては「離れている家族となかなか会えない」「マスクをすることのストレス」「自分の健康」「ストレスの発散方法」「いつ実家に帰省できるか？という不安」「こどもの就活」「家族の介護」「自分の就職」「遠隔地に住む家族のことが気になり」など家族に会えないことへの不安を感じている回答が多い。

## 6 女性センターに望むこと

問 現在の状況で函館市女性センターの男女共同参画事業にどのようなサービスを望みますか（複数回答可）

【男女別】



女性センターに望むことは「相談先の情報提供」が最も多く、次に「子育て世代の就労支援」。「オンライン講座」や「オンライン交流会」を希望する回答もあった。DV等相談先の情報提供や、オンライン講座の開催など取り組んでいきたい。その他の回答としては、「男女問わず拠り所になれるよう名称を変えること」「男性も利用しやすい施設名にするべき」といった意見や「未就学児と遊べる場所の提供」との意見があった。